

迎春



(大空に向かって歌う宇治市少年少女合唱団)

育てよう豊かな自然と文化

市議会議長 梅原文雄



新の気がみなぎるのを覚える次第であります。
ご承知のとおり、既に総合福祉会館は完成し、また都市基盤整備を進める公共下水道工事は本格的に着工され、さらに本年においては、市民文化センターの開設が予定されるなど、都市施設の建設や整備が着実に進んでいます。しかしながら市民の福祉を増進し市民生活の向上を目指すには、なお重要問題が山積しているのも事実であります。私たち議決機関といたしましては、その解決を図ることに全力をあげますと共に、宇治市が未来に向かって躍進していくために、さらに創意工夫を重ね、市民の皆様のご期待にこたえるよう決意を新たにす所存であります。

今後とも、市民の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

市長 池本正夫



市民の皆様 明けましておめでとう
ございます。早いもので、私が市長に
就任しまして三年が経過いたしました。
この間、市民本位の市政を基本に、「清
潔にして活力ある町づくり」を前進さ
せることができましたのも、市議会を
はじめ市民の皆様のご温かいご支援と協
力のたまものと厚くお礼申し上げます。
本年は、重点事業である広野中学校の開校が春に、
文化、芸術、社会教育活動の拠点となる市民文化セン
ターが秋に完成いたしますし、京滋・京奈バイパスや
街路整備事業なども六十二年京都国体をめざして本格
化いたします。特に京都国体については、十六万市民
の総力で必ず成功させなければなりません。この成功
が、「新しいふるさと宇治市づくり」の礎となるもの
と確信いたします。一方、文化育成施策、高齢化社会
に備える施策なども積極的に進めて行く必要があります。
私は、皆様のご指導・ご協力を得まして、これらの
実現のために全力を傾注して参る所存でございます。
ここに市民の皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈り
申し上げます。新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ

市民の皆様、明けましておめでとう
ございます。昭和五十九年の年頭にあ
たり宇治市議会を代表し、謹んで新年
のごあいさつを申し上げます。
お陰をもちまして、昨年六月には待
望の新議場も完成し懸案事項を審議し
て参りましたが、ここに新年を迎え清

を語る

町づくりをめざし
皆さんに、宇治市
いての座談会を開

新しいふるさとづくり

育てよう——郷土愛



出席者（順不同・敬称略）

- 蜂須賀 弘久**（京都市生まれ。現在、京都教育大学教授。羽拍子町に在住。54歳）
- 梅原文雄**（宇治市生まれ。昭和58年5月から宇治市議会議長。志津川に在住。62歳）
- 池本正夫**（宇治市生まれ。昭和55年12月から宇治市長。宇治妙楽に在住。63歳）

—写真は、右から蜂須賀さん、池本市長、梅原議長—

宇治を 第二のふるさとに

司会 皆さん、明けましておめでとうございませう。宇治は千年の歴史を有する町であるとともに、近年住宅都市として発展し、昨年には人口十六万人の都市となりました。現状の宇治市をどのようにお考えですか。

市長 昭和二十六年の市制発足当時は約三万八千人の人口でしたが三十五年ごろから四十年代にかけて人口が急増、学校施設の整備に追われたという経緯があります。このために都市基盤の整備が立ち遅れたことの反省から、一定の適正人口を確保して、その中で豊かな

市民生活ができる環境づくりをめざす方が秩序ある都市づくりにつながるという考え方で、人口抑制策をとってきています。



▲豊かな宇治の自然（宇治川）

蜂須賀 もう人口の増え方は止まりつつあるのでしょうか。

議長 京都府北部では過疎化が進み、人口の減少を食い止めようと苦勞しておられますが、南部は増加の一方です。宇治市では、規制する中で鈍化の傾向になってきましたね。

蜂須賀 私は、京都市で生まれ、舞鶴、亀岡におりまして、勤めの関係で十二年前に宇治市にやってきました。宇治市は明るくて暖かいのと、山と川、緑など自然がいのように思います。また、私の住んでいる周辺には若い人たちが多いので気楽さがあります。

市長 確かに、私も宇治で生まれ育ったのですが、よそへ出かけて宇治へ帰ってきたとき、宇治の風景を眺めると「景色のええとこやなあ」とつくづく思いを新たにすることがあります。

議長 これからは、市民同士がどうなっていくかが課題です。旧東宇治ですと十一月三日がお祭りですが、団地におられる人はお祭りはしないですね。子どもさんの中にもそういうへだたりが出てきまして、気になりますね。

市長 市の人口の四分の三が新しい町づくりを

市民参加で着実に

司会 現在、宇治市内を十二の生活圏に分けて、地域整備計画づくりが進められています。

市長 二十一世紀をめざして、町づくりのあるべき姿を、住民の代表者とも相談する中で、計画を立てているものです。これはふるさとづくりの一環でもありますし、他の自治体にはあまり見られない意義ある取り組みと考えています。

蜂須賀 何事でもビジョンをもって進める必要がありますね。

議長 地域整備計画は、行政から提案されたものを住民が協議していくもので、住民に夢と希望を持たせたいものです。絵に書いたもちではなく、着実に進めていく目標として、一歩一歩実現を図ってほしい。

新春座談会 明日の宇治市

昨年16万都市となった宇治市は、住みたい住んでよかつたて、着実に歩んでいます。そこで、池本市長をはじめ3人の総合福祉会館にお集まりいただき、明日の宇治市づくりにつきました。(司会=澤井広報課長)

非行防止は 対話から

司会 最近、小学校区や地域の自治会などであいさつ運動が行われて、子どもたちが素直になり、青少年非行防止にも大きな力になっているとのことですが。

蜂須賀 そのことは大事なことです。最近私たちの家庭でも声をかけなくなってきました。家族も少なくバラバラに寝起きして、人と人との交わりも無くなってきている。社会では、「はい」「どうぞ」「すみません」「ありがと」は最小限必要な言葉です。

市長 私も青少年問題は重要な課題だと考えています。五十五年に青少年対策室を設置し、一昨年二月から、だれにも言えない青少年の悩みを解決する手助けにと、宇治こころの電話を開いています。これは、ボランティアの人たちによって運営されているものですが一日十数件の相談があるようです。家庭での対話はもちろん、職場で



新しい文化の創造と 地場産業の振興を

司会 恵まれた自然環境の中で伝統文化が築かれ、今日に至るまで継承されてきていますが、これからの市民文化の創造について。

市長 本年九月末に市民文化センターがオープンします。十六万都市にふさわしい文化活動の拠点ができる訳ですから、これを機会にサークル活動、文化活動に寄与できると自負していますし、新しい

も対話が少なくなってきたという。文化が創造されることを期待しています。

議長 市民文化センターは、中央公民館、歴史資料館、中央図書館、大・小ホールというりっぱな建物です。これが重荷にならないように有効に活用されるよう行政がリードすることが必要です。宇治には伝統芸能が無いので、これを契機に新しい「ふるさとの民謡」を広く市民から募集してはどうか、と思っています。

蜂須賀 市長さん、茶音頭は昔からのものではないのですか。

市長 あれは新しく振り付けしたものです。しかし、宇治とお茶の結びつきは何物にもかえがたい遺産です。お茶と宇治を結びつけるようなものが他にあっていいと思います。やはり歴史的な町です。他にならぬできないものを作らなければならぬと思っています。

国体推進で 市民の健康づくり

司会 昨年国体宇治市準備委員会が発足しました。京都国体を契機に市民の健康づくりを推進する必要があります。

蜂須賀 今まで国体というスポーツの競技力のみが強調されましたが、今度の国体では違った角度から、スポーツの普及を図られるとよいと思います。スポーツの関係者と医師がタイアップして「ジン臓が悪いがスポーツは出来るか」など健康や運動の相談が手軽にできる施設ができればいいですね。その皮切りを京都でやるこ

作法を知らなくても、気軽に茶に親しむことが大切ですよと答えました。茶というものに対して一種の重苦しさを感じている人が多いですね。お茶の振興の面からもPRに取り組みが必要があります。

議長 人口が増えて茶園面積が減ってゆく中で、伝統的な宇治茶の新しい振興のために、行政でも積極的に取り組んでいただき、今後大切に次代へと伝えていってほしいし、責任もあると思います。

住みたい 住んでよかつた町に

司会 市では「住みたい 住んでよかつた都市」をめざして計画行政を進めています。そこで今後の町づくりについてのご意見を。

市長 住民参加を得ました地域整備計画づくりを進める中で、一定展望をもってきています。通勤・通学に便利な道路網が整備・充実され、また地域のコミュニティづくりにより役立つ公共施設が地域に分散した形で整備がされる。そして市民の皆さんが宇治を自分たちのふるさととして将来にわたってつくっていくのだという意識を持っていただき、皆さんの意向を広くお聞きして、行政の責任で快適な生活環境を整備していくことが町づくりの基本だと考えています。

とができればと思います。国体は一つの行事ですが、生き生きと、より高く、より豊かに過ごせる社会づくりと健康づくりで、府・市民全体に活力を与えるものでなければなりません。

蜂須賀 京都国体では、いろいろなアイデアを出して、京都にしか、宇治にしかない味を出したいものです。また、一生に一度しか無い機会です。学校の協力も得て、子どもたちにも感激を味わってほしいですね。



▲宇治市民ジョギング大会(太陽が丘前)

住みたい 住んでよかつた町に

市長 市では「住みたい 住んでよかつた都市」をめざして計画行政を進めています。そこで今後の町づくりについてのご意見を。

蜂須賀 京都国体では、いろいろなアイデアを出して、京都にしか、宇治にしかない味を出したいものです。また、一生に一度しか無い機会です。学校の協力も得て、子どもたちにも感激を味わってほしいですね。

議長 市議会としても方向を正しく見極め、誇れる町づくりをめざします。また、市民こそってのご協力をお願いしたいですね。

司会 どうも本日はありがとうございました。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

新春こどもコーナー



ふるさとむかし話

宇治川の水車

むかしむかし、まだ宇治川に堤防が築かれていなかったころのことです。宇治川の流は、いくすじにも分かれて、宇治市の西部にあった巨椋池に、流れこんでいました。宇治川の先陣争いで知られる「橋の小島」や「横島」・「蛭子島」などは、その流れの中にあつた島の名が、伝えられているのです。それらの島は早くから開拓されて、田畑が作られていま

したが、田に引き入れられたり、畑作物にそそぎかけたりする水は、島の周りの宇治川の水しかありません。でも、その水は、島の中の田畑にくらべて、低いところを流れているのです。高い位置の田畑にそそぐには、いちいちくみあげねばなりません。宇治の農民たちは、流れる水の力を利用して、低いところの水を高いところにくみあげる方法を考え、「筒車」と

呼ばれる水車を作り出したのです。それは京都に都がうつされてまもない、九世紀のはじめのことであつたと伝えられています。その水車は、さし絵にみられるように、周囲に水桶を付けたものです。流れに浸ったときに水をくみ入れた桶は、およそ半周して上にあがつたときに傾いて、水がこぼれます。その水を掛樋に受けて田畑に引き入れるという仕組みになっていました。それは簡単なようですが、よほどバランスよく作られていないと、うまく回らなかつたようです。「徒然草」という十四世紀前半に著された書物のなかに、こんなお話があります。

嵯峨にあつた離宮「亀山殿」の池に、大堰川の水をくみ入れようとして、近くの人に水車を作せたと、うまく回らない。そこで宇治の人を呼び寄せて、作り直させたところ、たちまち水を入れることができた。すぐれた技術というものは、とうとういものだ」と感心しているのです。宇治の人たちが上手に水車を作れるようになったのも、宇治川が作り出した地形と、そこに生きつづけた人たちの知恵であつたと言つてよいでしょう。

(歴史資料室)

伝言板ロボットをつくらう



〈用意するもの〉

- 空箱(大きさの違うものを数種類) ●ポリ容器のキャップ
- チラシ広告(裏の白地のもの)
- 接着剤 ●タコ糸 ●包装ひも
- 磁石(円筒形のものを数個)
- とんかち ●くぎ

